

月 日	第 一 回		第 二 回	
	心枯發生初期	心枯發生最盛期	心枯發生最盛期	白穂抽出初期
七月十六日				
八月四日				
八月二十九日				
九月五日				
九月十五日				
十月十一日				
被害總莖數	一、八八四 ^本		五二 ^本	
總 蟲 數	四四 ^匹		二九〇 ^匹	
一本平均蟲數	〇、二三 ^強		五、五四 ^強	

備考 以上ノ蟲數ハ螟蟲被害ノ總莖數ニ平均シタモノニテ之レヲ單ニ喰入莖數ニ計算スルトキハ尙ヨリ以上ノ蟲數(一本平均)トナル

右調査ハ本場稻中稻二化螟蟲ノ發生最多キ金佐糯種ニ付キ十坪以上ノ土地ヲ指定シ稻插秧後心枯發生初期ヨリ調査ヲ始メ被害莖ヲ切り開キ蟲ノ存在ヲ檢シタルモノナリ

其 二

本調査ハ秋期白穂ノ抽出期ト稻莖中螟蟲ノ潜伏多少トノ關係ヲ知ラントスル目的ヲ以テ左記ノ三期ニ別チ調査ヲ行ヒタルニ次ノ成績ヲ得タリ

第一期 白穂ノ出現シタル時

第二期 白穂ノ全部出現シタル時
第三期 白穂全部出現シタル後チ二週間ヲ經タル時

調査期別	種 類	採 取 月 日	調 査 地 點	白穂ノ本數	總 蟲 數	一本平均蟲數
第 一 期	穀 良 都	九 月 五 日	一、三〇 ^株	一三〇 ^本	二四三 ^匹	一、〇 ^匹 九 ^強
第 二 期	全	全 二 十 三 日	一、三〇	一五〇	一、五五 ^七	八、三 ^六
第 三 期	全	十 月 七 日	一、三〇	一五〇	九三	〇、六 ^一

前表調査ノ結果ニヨレハ螟蟲數ノ最多キハ第一期ノ一本平均二十四分九厘強ニシテ第二期之ニ次キ最モ尠ナキハ第三期ノ一本平均六分二厘ナリトス之レ螟蟲ハ白穂ノ抽出後日數ヲ經ルニ從ヒ他莖ニ散轉又ハ株中ニ下リ潜伏越冬ノ準備ヲナスモノナルヲ以テ如斯ク第三期ニアツテハ蟲數ヲ減シタルモノナラシ

因ニ前調査ノ其一ニ於テ蟲數及ヒ被害莖數ノ割合ニ尠ナキハ白穂抽出ヨリ五日毎ニ採取リヲ行ヒタル爲メ多少蟲ノ減少ヲ來シタルモノナラン

三、稻二化螟蟲越冬狀況調査

螟蟲ハ如何ナル状態ニテ越冬スルモノナルヤヲ知ラントスル目的ニテ前橋外三ヶ所ノ二毛作地及ヒ一毛作地ニ於テ稻株ヲ抜き取り株藁ヲ各別ニ切り開キ蟄伏セル螟蟲ノ存在ヲ調査セリ

一、調査ノ月日

前橋市 十二月七日 新田郡寶泉村 十一月六日 碓氷郡安中町 十一月二十五日

邑樂郡渡瀬村 十一月二十七日

一、本調査ハ前年ニ比シ調査時期ニ於テ少シク遅レタルヲ以テ農家ハ一般ニ稻刈取りヲ終了シ爲メニ全一地ノ藁ニ就テ調査スルコト能ハサリシ然レトモ前橋市乾田二毛作地邑樂郡濕田一毛作地及二毛作地ニ於テハ株藁共ニ全一ナルモノニテ調査セリ其結果左ノ如シ

調査地名	乾田 濕田 一毛二毛地別	種類	株數	刈株高サ	刈株ノ 莖數	被害ノ 數	蟲數	
							株	藁
前橋市	乾田二毛作地	金佐糯	四二株	一五〇	五六一本	三七本	三〇六	三
	濕田二毛作地	愛國	五〇	二五〇	五五〇	二二	九二	一
碓氷郡安中町	乾田二毛作地	愛國	三〇	一五〇	六〇〇	九八	四四	一
	濕田二毛作地	愛國	五〇	一五〇	五八二	二五	六二	一

新田郡寶泉村

乾田二毛作地	國富	五〇	一五〇	五八二	二二	七二	一
濕田二毛作地	愛國	五〇	二五〇	五二	一八〇	六〇	一

邑樂郡渡瀬村

濕田二毛作地	全	五〇	二五〇	五五五	一三三	五二	一五
全一毛作地	關取	五〇	三〇〇	五〇〇	五	二	〇

前表調査ニ據テ見レハ螟蟲ノ多キハ前橋市ニシテ新田郡之ニ次キ邑樂郡稍ヤ少ナシ而シテ本年ノ螟蟲ハ第一化ノ加害時期ニ於テハ其發生頗ル多ク第二化ニアツテハ前年ニ比シ極メテ少ナシ然レトモ越冬狀況調査ニ依テ見レバ前年ニ劣ラザル螟蟲數ヲ認メタリ今最近四ヶ年ニ於ケル越冬螟蟲數ヲ示セバ左ノ如シ而シテ本調査ハ年々全一町村ニ於テ調査セリ

一、株及藁中ノ螟蟲數ヲ示ス

調査地名	乾田 濕田 別	四十二年		四十三年		四十四年		大正元年		大正二年	
		株	藁	株	藁	株	藁	株	藁	株	藁
前橋市	乾田	四	九	三	七	二〇	一六	三〇	二六	三	三
	濕田	二	九	三	七	二〇	一六	三〇	二六	三	三
全		六	一八	六	一四	四〇	三二	六〇	五二	六	六

全 全 全 全 全

全 全 全 全 全
二十六日 二十四日

五 五 五 五 五

八九 七〇 五二 六〇 八三

六 二 〇 七 一

〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 一 一

〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇

備考

一、露出、埋没ノ調査ハ各別ニ五十株宛ヲ拾ヒ取り一々之ヲ切り開キ虫ノ存在ヲ檢シタリ
 一、本調査ノ場所ハ當場附近農家ノ麥作ニ毛作田ヲ指定シ一回ニ二ヶ所ツ、調査ヲ行ヒタリ
 右調査ノ狀況ニ據テ見レハ螟虫ノ移動ハ四月十八日頃ヨリ少シク始メ順次日ヲ重スルト全時ニ暖氣ヲ催
 スニ從ヒ漸次露出ノ株ニ移動シ五月二十四日以降ニ至レハ盡ク移動ヲ終ルモノ、如シ本調査ノ結果ニヨ
 レハ螟虫ノ驅除ハ此ノ移動期ニ於テ二毛作地ニアツテハ露出株ヲ一齊ニ拾ヒ取り燒却又ハ燻殺セハ從來
 行ヒツ、アル驅除法ニ比シ遙ニ優レルモノナラン尙調査ヲ重テテ確メントス

五、麥蛾ト陽乾トノ關係調査

本調査ハ麥收穫後直チニ陽乾セハ麥蛾ノ幼虫死滅スルモノナルヤ否ヲ知ラントスル目的ヲ以テ調査ヲ行

ヒタルニ其結果左ノ如シ

一、調査ノ方法 當場麥圃ヨリ百穂宛ヲ採集シ乾燥セルモノト乾燥セサルモノトニ區別シ各區共ニ飼育
 箱ニ移シ發蛾ノ狀況ヲ調査セリ其成績左ノ如シ

一、調査ノ結果

區號	乾 燥 不 乾 燥 ノ 別	麥 粒 數 量	發 蛾 數
一	麥穗ノ儘更ニ乾燥セサルモノ	百	六二
二	脱粒シタル儘乾燥セサルモノ	百穂ヨリ脱粒	二一
三	脱粒後晴天ニ二日乾燥シタルモノ	全	〇
四	脱粒後晴天ニ三日乾燥シタルモノ	全	〇
五	麥穗ノ儘一日乾燥セルモノ	百	七

備考

一、調査ニ供用セル種實ノ乾燥ハ新聞紙上ニ載セ一粒宛ニ併列シ充分乾燥ニ注意セリ
 一、本調査ニ供シタル麥穗ハ刈取後(各區共)稈ノ附シタル儘畑中ニ倒シ一日乾燥シタルモノナリ

以上ノ調査ニヨレハ脱粒シテ二日乃至三日、乾燥シタルモノニハ更ニ發蛾ヲ認メス乾燥不十分ナルモノニハ多數ノ發蛾ヲ見タリ之ニ依テ見レハ先ツ麥蛾ノ豫防ニハ充分乾燥スルニ効アルコトヲ確メ得タリ

六、稻二化螟蟲ノ産卵期ト被害トノ關係調査

本調査ハ苗代期ニ於テ螟蟲ノ産卵早晚ハ稻作ノ被害ニ如何ナル關係ヲ及ホスモノナルヤヲ確メントスルノ目的ニテ左ノ如キ調査ヲ行ヒタリ

一、調査ノ方法 一尺四面ノ極小サキ木框内ニ於テ多數ノ苗代ヲ造リ之ニ普通苗代ト全一ナル種子量ヲ播種シ發蛾ノ後チ螟蟲ノ産卵スル頃ニ至ラハ毎日産附ノ狀況ヲ調査スルト全時ニ産卵セルモノニハ何月何日ノ産卵ト一々札ヲ附シ置キ其後札ヲ附シタル苗代ニ再ヒ産卵ヲ認ムルハ之ヲ採卵シ前ニ札ヲ附シタル卵塊ノミヲ孵化セシメ稻莖中ニ喰入セル苗ヲ插秧シ左記産卵月日ノモノニ就テ被害ノ狀況ヲ調査セリ

一、株數及種類 本調査ニ使用セル種類ハ金佐糯ニシテ各區共ニ一坪ニシテ一本植トナシ其採數八十四株トス

一、插秧及其他 各區共ニ六月二十九日ニ插秧シ肥料及ヒ除草其他ハ凡テ本場ノ普通法ニヨル

一、調査ノ結果

區號	産卵期別	第一回被害狀況調査(心粘莖)			第二回被害狀況調査(白穗)		
		八月二日調査	八月十四日調査	計	九月十四日調査	九月廿六日調査	計
一	六月五日産卵	五本	五本	一〇七本	三本	九本	一二本
二	六月九日産卵	六本	六本	一二五本	五本	二九本	三四本
三	六月十二日産卵	六本	五本	一一一〇本	二五本	二九本	三六本
四	六月十三日産卵	七本	六本	一三三本	九本	三三本	四二本
五	六月十四日産卵	九本	三本	一二六本	四本	九本	一三本
六	六月廿四日産卵	三本	四本	一〇七本	八本	四本	一二本

右調査ノ結果ニ據レハ第一回ノ被害ノ最モ多キハ六月十三日ノ産卵ニシテ六月九日、六月十三日ノ産卵順次之ニ次キ被害ノ少ナキハ六月十四日ナリトス而シテ第二回ノ被害ニアツテハ第一回ニ發生多キモノニハ反テ螟蟲ノ被害少ナキカ如シ之レ螟蟲ハ第一回ノ終リニ於テ成蟲トナリ他ニ飛散スルヲ以テ如斯キ狀況ヲ呈シタルモノナラン要スルニ本調査ハ未タ一回ノ調査ナルカ故ニ之ヲ斷定スルコト能ハスト雖モ先ツ六月中旬ノ産卵被害多キカ如シ而シテ越冬螟蟲ノ狀況ハ如何ナルモノナルヤヲ調査シタルニ左ノ如キ多數ノ螟蟲ヲ認メ得タリ

區號	產卵期別	總莖數	被害莖數	調查月日	越冬蟲數		計
					株	莖	
一	六月五日產卵	五二	三〇七	十二月五日	三〇六	三	三〇九
二	六月九日產卵	五五	三三	十二月七日	三二	三	三五
三	六月十二日產卵	五九	二七	十二月八日	二五	三	二八
四	六月十三日產卵	四五	二四	十二月十日	一五	三	一八
五	六月十四日產卵	六九	三三	四月十七日	九	一四	二四
六	六月二十四日產卵	調査ヲ欠ク					

以上ノ狀況ニ據テ見レハ第二回ノ被害調査ニ於テハ白穗抽出極メテ少ナカリシカ蟲數ニアツテハ頗ル多ク之レカ如何ナル理由ナルカハ疑ヒヲ存スル所ナリ要スルニ本年ノ螟蟲ハ稻出穂時期ニ發生少ク稻結實後即チ黃熟シタル頃發生多キカ爲メ稻ニハ何等異狀ナク株及ヒ莖中ニ越冬螟蟲ノ多キヲ來シタルモノナラン

七、稻二化螟蟲ト種類トノ關係調査

本調査ハ當場ニ於テ栽培セル稻作ニシテ如何ナル種類ニ螟蟲ノ發生多キヤヲ知ラントスル目的ニテ左ノ種類ニ就テ調査セリ

一、調査ノ月日 八月五日

稻種	螟蟲發生ノ多少	稻種	螟蟲發生ノ多少
月布	少	金佐	最多
龜尾	全	梅原	少
女ノ	多	御膳	少
早愛	少	大陽	全
早國	中	大黒	最多
大森	中	大黒	最多
富山	少	改良	極少
富山	少	改良	極少
幾内	全	東郷	全
幾内	全	東郷	全
全	少	松島	全
全	少	松島	全
全	中	上總	全
全	中	上總	全
全	全	美濃	全
全	全	美濃	全
代田	最多	常盤	全
代田	最多	常盤	全
富山	極少	竹成	全
富山	極少	竹成	全
富山	極少	竹成	全
太郎	最多	由與	少
太郎	最多	由與	少

九、果樹病害調査

近來果樹栽培者増加スルト全時ニ之ニ伴フ病害ハ益々多キヲ來シ殊ニ現今ノ狀況ニ於テハ漸次新病害ノ侵入ヲ被ムリ當業者ノ受クル損害尠ナカラサルヲ以テ當場ニ於テハ桃炭疽病苹果腐爛病等ノ分布區域及ヒ被害ノ状態ヲ調査シタルニ縣下全般ニ涉リ蔓延スルニ至レリ

一、練習講習並傳習ニ關スル事項

(一) 練習生養成 本場練習生規程ニ基キ本年度養成シタル甲乙種練習修業者左ノ如シ

木甲種	佐波郡東山村	小島山	幸藏
	勢多郡宮城村	大崎	與平
	碓氷郡坂本町	三上	松次郎
	吾妻郡中之條町	樋田	久一
	全岩島村	小淵	榮次
	群馬郡桃井村	奥泉	樂造
	吾妻郡伊參村	綿貫	保

(二)

農事選抜講習 本場規程ニ基キ各郡市長ノ選抜ニ係ル講習生三十三名ヲ大正三年三月一日ヨリ一ヶ月間本場ニ於テ講習セリ其修得者左ノ如シ

乙種	多野郡藤岡町	横田	寛
	吾妻郡原町	坂口	金次
	勢多郡南橋村	木村	善男
	多野郡美九里村	鹽原	馬司
	群馬郡國府村	住谷	恒司
前橋市	高城	彦太郎	
勢多郡富士見村	樺澤	泰重	
全郡桂萱村	市根	井九八	
全郡宮城村	北爪	安衛	
全郡下川淵村	島田	竹太郎	
全郡粕川村	鈴木	吉彌	
全郡芳賀村	池田	正作	

全	全	全	全	全	全	全	吾妻郡名久田村	全	全	全	全	全	全
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	第十二回	郡	郡	郡	郡	郡	郡
全	全	全	全	全	全	全		全	全	全	全	全	全
村	村	村	村	村	村	村		町	町	町	町	町	町

關	桑	劔	吉	田	飯	關	小	今	田	福	唐	高	大
	原	持	田	村	塚	理	淵	井	村	田	澤	橋	前
權	伊	良	谷	時	連	平	源	芳	信	豐	榮	保	喜
六	助	作	藏	松	次	太	八	郎	郎	郎	治	壽	作

吾妻郡中之條町	全	全	全	全	全	全	全	吾妻郡澤田村	全	全	吾妻郡坂上村
第十一回	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡		
	全	全	全	全	全	全	全	全	全		
	村	村	村	村	村	村	村	村	村		

高	折	田	星	山	今	宮	松	關	綿	清	清	加
橋	田	村	野	口	井	崎	井	慶	貫	水	水	邊
源	軍	喜	政	勿	鹿	國	源	慶	慶	優	九	金
吉	平	伊	太郎	作	吉	郎	郎	藏	多	吉	郎	郎

品名	配布數量	配布人員
坊主二本三	〇、八七〇	二九〇
信州早生	〇、〇三五	一二
改良愛國	一、三七五	四五九
太郎兵衛	〇、六〇〇	二〇〇
愛國	一、七八〇	五九四
殼都	一、〇七〇	三五七
福龜	二、五四〇	八四七
東郷	〇、二〇〇	六七
苗代	〇、一六〇	五四
玉錦	〇、五五〇	一八四
金佐	一、一三五	三七九
早生愛國	〇、二〇〇	六七

吾妻郡中之條町	七月六日	四百二十人
全原町	七月七日	三百五十人
全坂上村	七月七日	百七十人
全太田村	八月八日	二百九十人
全東村	八月八日	四百二十人
山田郡休泊村	十一月十日	三百七十人
多野郡藤岡町	十一月十一日	二百八十人
全美土里村	十一月十三日	百八十人
全美九里村	十一月十四日	三百五十人
全	十一月十六日	三百三十人
全	十一月十七日	二百五十人
全	十一月十八日	百六十人

三、種苗、種卵、種畜等ノ配布ニ關スル事項

(一) 水陸稻、麥、大豆、品種試驗中成績佳良ナルモノヲ選抜シ本場採種圃ニ栽培シタル種子ヲ縣下各郡市町村農會及ビ一般ノ當業者ニ原種トシテ無代配布セリ

種 類 名	種	卵	種	禽	(四) 種卵種禽拂下數				
					確 氷	吾 妻	利 根	山 田	邑 樂
白色レグホーン		二二		三五	〇、二〇	一、四〇	二、〇〇	一、三七	〇、一〇
褐色レグホーン		四〇		一八	新 田	佐 波	前 橋	其 他	計
黑色ハンハーク		一八		九					
漣班ブリマウスロック		二六		一七					
名古屋交跡		五〇		二					
北京ダツク		一〇		三					

群 勢	郡 市 名	拂 下 數 量	郡 市 名	拂 下 數 量	(三) 葱頭種子拂下					
					梨 荷	李 桃	櫻 桃	草 莓	寒 歸	無 果
勢 多	多 野	二、七五	多 野	〇、三	一〇〇	六五	一〇〇	七、六〇〇	三五〇	六五
馬 多	馬 野	〇、三〇	馬 野	三、五六						

葱頭栽培ノ有利ナルヲ認メ之レカ獎勵ヲ計ランカ爲メ當場ニ於テ採種ヲ行セ左表ノ通拂下ヲナセリ

確 水 郡	板 鼻 町	五七、四〇〇〇	一月三十日
佐 波 郡	赤 堀 村	四〇、一〇〇〇	二月十日
邑 樂 郡	佐 貫 村	一七〇、〇〇〇〇	全 二十五日
吾 妻 郡	中 之 條 町	三〇〇、〇〇〇〇	三月十四日
全 坂 村	坂 上 村	一〇〇、〇〇〇〇	十一月三十日
全 澤 田 村	澤 田 村	一〇〇、〇〇〇〇	十二月一日
全 名 久 田 村	名 久 田 村	五〇、〇〇〇〇	三月十五日
計		三、二五三、〇六〇〇	

四、獎勵其他ニ關スル事項

- 一、冷水温湯浸法ノ獎勵
麥類黑穗病及班葉病等ノ豫防ヲ手段トシテ冷水温湯浸法ヲ示導獎勵シタルニ之ヲ行フモノ益々多キヲ來シ今ヤ縣下全体ニ普及シ一般ニ播種スヘキ麥種子ノ約三分五厘位ノ實行ヲ見ルニ至レリ
- 二、倉庫ニ硫化炭素ノ燻蒸獎勵

倉庫ニ棲息スル貯穀害蟲類ノ驅除豫防ノ爲メニ二硫化炭素ノ燻蒸ヲ示導獎勵シタルニ之ヲ實行スルモノ漸次増加シ今ヤ縣下ニ於テ五十八ヶ所ノ倉庫ヲ燻蒸シ其効果極メテ顯著ナリ

- 三、果樹蔬菜ノ病害蟲驅除豫防ノ獎勵
果樹及ヒ蔬菜ニ對スル病害蟲ハ漸次増加シ當業者ノ受クル損害尠ナカラサルヲ以テ當場ニ於テハ之カ驅除豫防方法トシテ殺蟲劑及ヒ殺菌劑ノ製法並ニ使用法等ノ實地示導ヲナシ大ニ獎勵セリ
- 四、苗木青酸瓦斯燻蒸

苗木ト共ニ傳播スル各種ノ病害蟲ハ苗木ノ搬出入ト全時ニ益々増加蔓延シ當業者ノ受クル損害ハ尠ナカラサルカ故ニ當場ニ於テハ之カ豫防手段トシテ去ル四十四年三月公布シタル苗木青酸瓦斯燻蒸依頼手續ニヨリ當業者ノ依頼ニ應シ燻蒸シタル苗木ノ數量左ノ如シ

- 一、桃、柿、桐、苗木 三 千 本
- 一、桑苗木 一 萬 本
- 一、桑、桃、梨、苗木 五 千 本
- 一、苹果、櫻桃、苗木 四 千 二百 本
- 一、葡萄苗木 五 百 本
- 一、柗、梨、松、苗木 一 千 八百 本

- 一、桑苗木 一千六百本
- 一、桑苗木 一千七百本
- 計 二萬七千八百本

五、原種栽培標準

水稻、陸稻ニ對シ本場ノ試驗成績ニ鑑ミ原種栽培標準ヲ定メ郡市農會其他ニ指示セリ

水稻原種田栽培標準

一、位置及ヒ地味

水ノ灌排自由ニシテ冷水汚水等ノ流入スルコトナク日光ノ透射空氣ノ流通宜シク地味中庸ナル壤土ノ乾田ヲ選フヘシ尙原種田ノ周圍ノ田地ニ於テハ他品種ノ栽培ヲ避クルヲ要ス

二、選種

粳種ハ一、二三、糯種ハ一、〇八ノ比重液ヲ用ヒ比重選ヲ行フヘシ

三、浸種

七日間桶浸トナス浸水ハ清澄ナルモノヲ用ヒ隔日ニ取換日光ノ直射セサル處ニ置クヘシ

四、苗代

(イ) 整地 日光ノ透射空氣ノ流通良ク灌排水ノ便ナル土地ヲ選ヒ十二月中旬三四寸ノ深サニ耕起シ置キ三

月下旬ニ至リ馬鍬ニテ從横ニ耕起シテ土塊ヲ細ニ碎キテ播種一週間乃至十日前ニ至リ周圍ノ畦際三尺通リヲ除キテ堆肥及ヒ人糞尿ヲ撒布シ能ク耕土ト混シ置キ播種期ニ至リ畦際中二三尺ノ處ニ水ヲ灌キ土ヲ捏子高サ一尺以上ニ畔塗ヲ行ヒ後水ヲ全体ニ灌キ馬鍬ニテ從横ニ三回耕起シ過磷酸石灰ヲ施シ又二三回耕起シ鍬ヲ以テ丁寧ニ均ラシ直ニ水ヲ湛ヘ翌日ニ至リ水ノ清澄スルヲ待テ播種スヘシ

苗床ノ區畫 播巾四尺床間一尺トナスヘシ

(ハ)(ロ) 肥料 三成分ノ標準ハ苗代一坪ニ對シ窒素八匁磷酸五匁加里六匁ニシテ地味ニヨリ多少加減スルヲ要ス普通一坪ニ付キ腐熟堆肥一貫目人糞尿五百匁強過磷酸石灰二十匁ヲ施用スヘシ

(ニ) 播種量 一坪播下スヘキ種子量ハ大粒二合小粒一合五勺トス

(ホ) 播種期 四月下旬トヌ遅クモ八十八夜ヲ過クヘカラス

(ハ) 管理 冷水ヲ灌カサル爲メ水溜ヲ設クヘシ灌水ハ成ルヘク淺水トナシ病蟲害ノ驅除豫防及ヒ雜草ノ除去ニ努ムヘシ

五、本田ノ肥料

原種田肥料ハ普通田ノ三分ノ一減位ヲ施スヘシ即チ其ノ標準ハ左ノ如シ

堆肥	種類	反當施用量	成分			加量
			窒素	磷酸	加里	
二〇〇〇〇〇			一五〇〇	〇七二〇	一、一〇〇	

大豆粕	一四、〇〇〇	〇、八二七	〇、一八九	〇、二八〇
人糞尿	一八、〇〇〇	〇、一六〇	〇、〇六八	〇、〇六三
強過磷酸石灰	四、八〇〇	一	一、〇二六	一

合計	一	二、四八七	二、〇〇三	一、五四三
----	---	-------	-------	-------

以上ノ肥料ハ全部基肥トシテ施用シ決シテ追肥トナスヘカラス

六、插秧 母本ノ選擇ノ要アルヲ以テ原種田ハ必ス一本植トナスヘシ斯クスルトキハ變種又ハ夾雜セルモノ等ヲ除去スルニ甚タ便ナリ而シテ插秧法ハ南北ノ畦行トシ畦間一尺株間四寸五分即チ一坪ニ八十株植トナスヘシ插秧期ハ一般ニ伴ヒ遅レサルヲ要ス

七、灌排水

灌水ハ成ルヘク淺水トナシ開花後穂ノ傾垂スル時ニ至ラハ全ク水ヲ排除シテ田面ノ乾燥ヲ計ルヘシ

八、除草

四回行フ第一回ハ植付後十日乃至二週間ヲ經タルトキニ蟹爪打ヲナシ第二回ハ夫ヨリ五六日ヲ經タルトキニ手ニテ蟹爪直シヲナシ第三回ハ更ニ八九日ヲ經テ牛ニテ行ヒ第四回ハ又八九日ヲ經テ手ヲ以テ淺ク行フヘシ

除草ノ方法ハ初メハ深クナシ回ヲ重スル毎ニ漸次淺ク攪擾シテ稻根ヲ損傷セシメサル様行フヘシ而シテ除草ハ遅クモ八月五日迄ニ止ムルヲ要ス

田稗拔取ハ時期ヲ選ハス見付次第直ニ之ヲ行フヘシ

九、管理

原種田ハ時々巡視シテ雜草變種及ヒ病蟲害ニ罹リタル株ノ除去ニ務ムヘシ殊ニ出穂後ハ鑑別シ易キヲ以テ怠タラス巡視シテ異品種ト認ムヘキモノハ勿論出穂ノ早キモノ若シクハ遅レタルモノ或ハ何レノ部分ニ於テモ多少ノ變調ヲ來タシタルモノアラハ發見毎ニ直ニ其ノ株全部ヲ拔去ルヘシ

一〇、收納

黃熟期即チ穂首ノ黃變セルキヲ見テ刈取ルヘシ刈取り後ハ數日間其ノ儘乾燥シ十分後熟作用ヲ遂ケシメテ扱落シ糲ヲ傷ケサル様懇ロニ調製シ尙一日間簾干シヲナシ古葉ニテ製シタル二重俵ニ容ルヘク緊縛シテ温度ノ變化ナキ乾燥ナル場所ニ貯藏シ發芽力ヲ損セサルコトニ注意スヘシ

陸稻原種圃栽培標準

一、土地

日光ノ透射、空氣ノ流通佳良ナル處ニシテ耕土深ク有機物ニ富ミ保水力強ク成ルベク旱害ヲ被ラサル土地ヲ選定スベシ

二、整地

耕鋤ハ成ルベク深ク行ヒ其際稗類ノ有機物ヲ鋤キ込メハ幾分旱魃ノ害ヲ免ル而シテ土塊ヲ丁寧ニ碎キ地均ラシヲナスベシ

三、畦中

畦ノ方向ハ南北トシ畦巾ハ二尺トナスベシ

四、播種量

一反歩ニ播下スベキ種子量ハ三坪乃至三坪五合トス

五、選種

一、〇八ノ比重液ニテ選種ヲ行フベシ

六、播種期

四月下旬乃至五月上旬トス

七、肥料

一反歩當リ左ノ如シ

種類	用	量	窒	素	成	分	酸	加	量	里
堆肥		二〇〇		一五〇〇		〇七二〇			一、二〇〇	
大豆粕		四		〇、二三六		〇、〇五四			〇、〇八〇	
硫酸アンモニア		四		〇、八〇〇						
強過磷酸石灰		五		一、〇〇〇						
人糞尿		五四		〇、四八〇		〇、二〇四			〇、一八九	
合計				三、〇一六		一、九七八			一、四六八	

種類	用	量	窒	素	成	分	酸	加	量	里
堆肥		二〇〇		一五〇〇		〇七二〇			一、二〇〇	
大豆粕		四		〇、二三六		〇、〇五四			〇、〇八〇	
硫酸アンモニア		四		〇、八〇〇						
強過磷酸石灰		五		一、〇〇〇						
人糞尿		五四		〇、四八〇		〇、二〇四			〇、一八九	
合計				三、〇一六		一、九七八			一、四六八	

人糞尿中十八貫及其他ノ全部ヲ元肥トナスベシ

八、播種

作條ヲ深ク穿テ元肥ヲ施シ五分位ノ厚ヲニ合土ヲナシ種子ヲ條播シ更ニ五分位ノ厚サニ覆土シ土壤ノ乾燥ヲ待チテ踏付スベシ

九、間引

原種圃ハ元來一粒播ヲ原則トスルモノナレトモ陸稻ニアリテハ發芽後病蟲害等ノ爲枯損スル株ヲ生シ甚ダシク疎ニ失スルトキハ分蘖遅レ種子ノ充實ヲ全フセサルコトアリ故ニ條播ヲナシ六月下旬ニ至リ生育確實トナリタルトキ生育不良ナルモノヲ間引キテ將來雜種株等ヲ判別拔去スルニ足ルノ距離トナスベシ

一〇、除草

雜草發生シ易キヲ以テ之レヲ除去ニ務ムベシ第一回ハ六月上旬、第二回ハ七月上旬、第三回ハ七月下旬、第四回ハ八月中旬トス尙ホ其他ニ於テモ發生ヲ見ルトキハ隨時除去スルヲ要ス

一一、中耕

第一回ハ六月上旬ニシテ此際ハ陸稻ノ株際ニ土寄せサル様行ヒ第二回ハ六月下旬乃至七月上旬ニシテ此時モ第一回ト全ク土ノ寄ルヲ避ケ第三回ハ七月中下旬行ヒテ終耕トスベシ

一二、追肥

第一回ハ六月上旬ニシテ人糞尿十八貫ヲ三四倍ノ水ニ稀釋シテ施シ第二回ハ六月下旬乃至七月上旬第一回ト同量ヲ施用スベシ

一三、灌水

出穂期ニ至リ旱天連續スルトキハ灌水ヲ行フヲ要ス灌水ハ日中ヲ避ケ日没後土地ノ冷却スルヲ待チテ行フベシ而シテ灌水ヲ始メタルトキハ一二日ニ止メヌ雨天ノ來ル迄連續スルヲ要ス

一四、管理

隨時巡視シテ雜種變種及病蟲害ニ罹リタル株ノ除去ニ務ムベシ殊ニ出穂後ハ之等ヲ鑑別スルニ容易ナルヲ以テ怠ラス巡視シ苟モ異品種ト認メタルモノハ勿論出穂期ノ異ナルモノ等悉皆拔キ去ルベシ

一五、收納

黃熟期即チ穂首ノ黃變セル時ヲ見テ刈取り數日其儘乾燥シ十分後熟作用ヲ遂ケシメテ扱落シ粃ヲ傷ケサル様懇ロニ調製シ尙ホ一二日藩干シヲナシ古藁ニテ製シタル二重俵ニ容レ成ルベク緊縛シテ温度ノ變化ナキ乾燥ナル場所ニ貯藏シ發芽力ヲ損セサルコトニ注意スベシ

五、肥料及土壤等ノ鑑定分析ニ關スル事項

肥料、土壤、農産物、水及フオルマリンノ定性定量分析並之等鑑定ノ依頼ニ應シタル件數左ノ如シ

窒素	四五
磷酸	四五
加里	九
土壤酸度	一〇
フオルマリン	三
場用分析件數總計	八九

六、成績報告並印刷物配布

試驗成績報告其他注意事項等印刷ニ附シタルモノ左ノ如シ

水陸稻種類試驗成績表	千部
大小裸麥種類試驗成績表	千部
稻作ノ榮	千部
大正元年度業務功程	五百部
養蠶試驗成績十年報	五百部
野鼠驅除ノ心得	千部

七、場員出張

(イ) 管内	講習	十二	講話	四十一
調查	十六	視察	八	
審査	三十四	指導	五十六	
其他	十八			
(ロ) 管外	九件			

八、鑑定及質問應答

質問應答	九十一件
農具鑑定	三件
病虫害驅除器鑑定	二件

九、文書ノ往復

收受	千二百九十六件
發送	千三百七十二件

十、來觀人員

總計 壹万貳千八百七拾貳人

14.2.1
3/51

大正三年六月十六日印刷
大正三年六月十八日發行

群馬縣立農事試驗場

印刷者 深町傳七

群馬縣前橋市堅町十番地

印刷所 前橋印刷所

全縣全市堅町百〇一番地

終

